

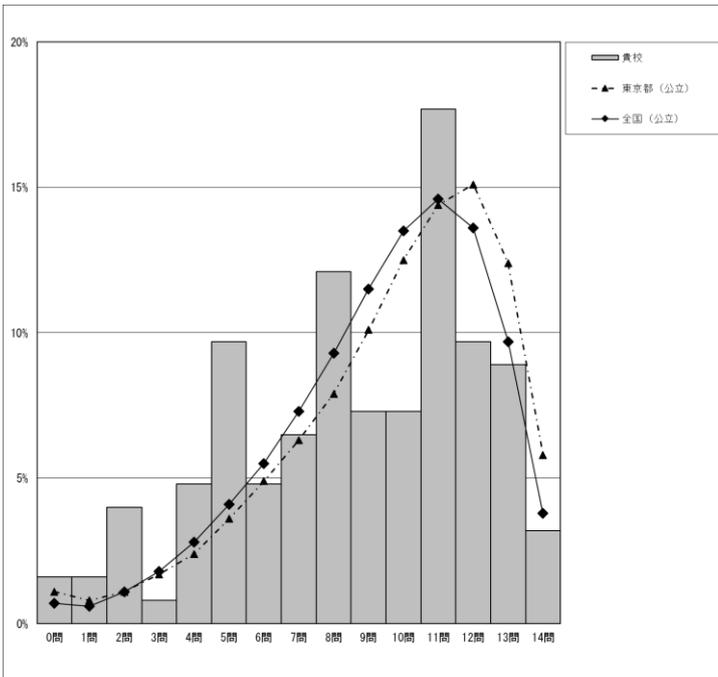
令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

江戸川区立下鎌田小学校

1 学力調査結果

■国語

	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
江戸川区立下鎌田小学校	8.6 / 14	61	9.0	3.4
東京都(公立)	9.7 / 14	69	10.0	3.1
全国(公立)	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9



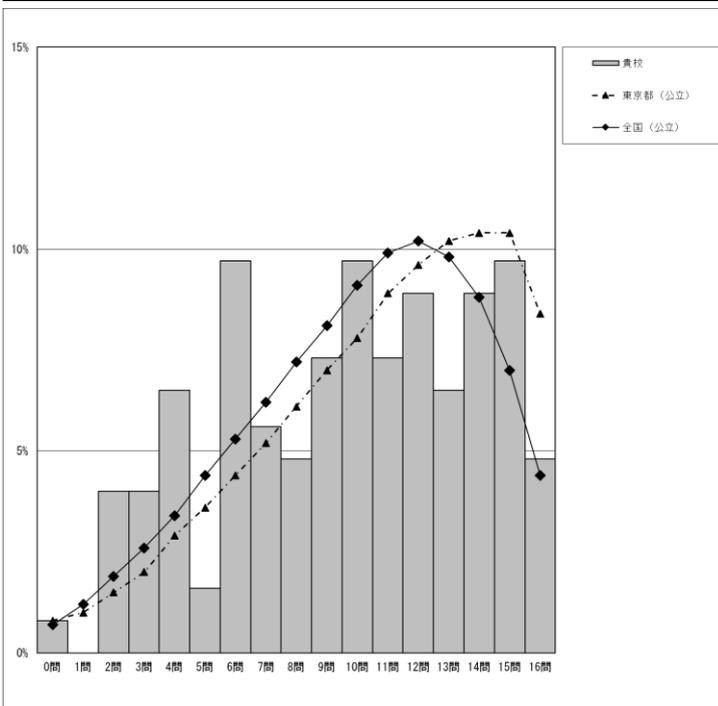
国語の平均正答率は、都平均・全国平均どちらと比較しても下回っている。

設問ごとにみても、①文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうか、②必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうか、に関する設問に対する正答率が全国平均と比べ、本校は10%以上低くなっている。

「自分の考えもち、書く」「目的に応じて質問等をしながら聞く」ことの指導の充実を図っていく必要がある。

■算数

	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
江戸川区立下鎌田小学校	9.7 / 16	61	10.0	4.1
東京都(公立)	10.7 / 16	67	11.0	3.9
全国(公立)	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

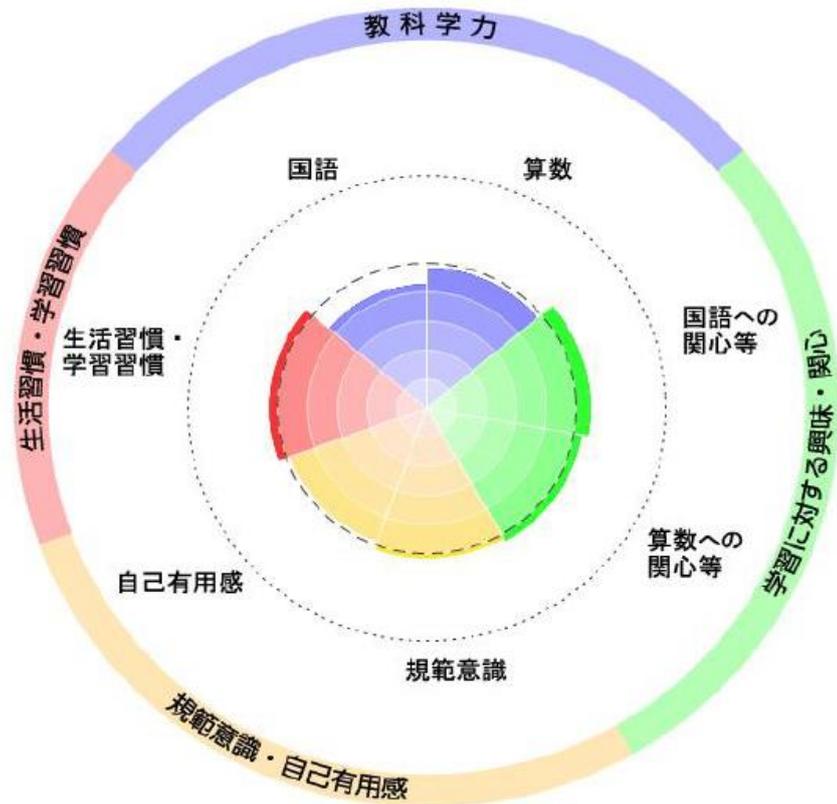


算数の平均正答率は、都平均・全国平均どちらと比較しても下回っている。

設問ごとにみても、①正方形の意味や性質について理解しているか、②示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるか、③示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるか、に関する設問に対する正答率が全国平均と比べ、本校は5%以上低くなっている。

正方形のみならず図形の定義と性質への理解、グラフの読み取りに関する指導の工夫・改善をしていく必要がある。

2 意識調査



全国基準と比較して「国語・算数への関心等」、「規範意識」、「生活習慣・学習習慣」については肯定的な回答が多くなっている。

一方で、「自己有用感」については否定的な回答が割合として多くなっているものの、著しく低いものではなく課題とは言えない。

設問単位で肯定的な回答の割合が相対的に低かったものは、「一定の就寝時間」などの生活リズムに関すること、「図書館の利用」「読書への関心」などの読書習慣に関することであった。

保護者会や生活指導だより等で生活リズムの維持を呼びかけるとともに江戸川区の特色である読書科の指導をより充実させていく必要がある。